



2月は来年度の児童生徒会の役員選挙や各学部の卒業生を送る行事などが行われました。インフルエンザが心配される時期でもあるので、立会演説会をVTR視聴できるように工夫するなど、学校全体で感染予防の対策をしながら、子どもたちの思い出に残る行事となるよう支援してきました。一つ一つの行事を終えるごとに、達成感や充実感を感じている様子が見られ、児童生徒の成長を感じられました。

平成28年度 放課後等デイサービス・日中一時支援事業所連絡協議会

先月、本校の児童生徒が利用している13事業所の方々に来校していただき、連絡協議会を開催しました。参加いただいた方々には、各事業所を利用している児童生徒の普段の学習風景を参観していただきました。次に、各事業所から活動内容や利用者状況を簡単に説明していただき、各事業の活動方針を知る良い機会となりました。さらに、本校の生徒指導主事よりスクールバス利用の際のポイントについて伝達が行われました。特に、バス停への送迎サービスを利用する場合には、送迎者変更届が必要であることを確認することができました。（本校の保護者の皆さまには、事前に担任に申し出ていただいております。）



連絡協議会の様子

今回の協議会を通して、インフルエンザ等が流行した場合、まちコミメールによって感染状況をお互いに共有できるようになりました。今後も、児童生徒にとってよりよい支援を行えるように、学校、保護者、各事業所との連携を深めていきたいと思っております。尚、児童生徒に関連する事柄でお困りのことがありましたら、本校に気兼ねなくご相談ください。ご連絡をお待ちしています。

しもとくサポート情報コーナー

【サインやシンボルによるコミュニケーション支援について】

耳に聞こえにくさがあったり、音声よりも視覚的な情報のほうが分かりやすかったりする場合に、言葉とともにサインやシンボルを使用することがあります。よく授業の中で使うサインには、右の図のような「はじめます」や「おわります」があります。サインには手話やマカトンサイン、ジェスチャーなどがありますが、児童生徒の実態に合ったものを使用しています。シンボルとは、活動や物などをイラストやマークで表したものです。どこに行くのか、何をするのか、どんな手順でやるのかなどを理解し、見通しをもって取り組む手助けになります。授業の中では、文字の横にイラストをつけることで、個に応じた支援をしながら、学習することもできます。また、シンボルを選ぶことで、やりたいことや気持ちを伝えるというコミュニケーションツールとしても使えます。サインやシンボルは、生活全般で使用すると大変有効と思われると思います。学校だけでなく、家庭、施設、病院などでも支援方法の一つとして共有しながら使用できるとよいと思います。

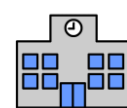


「はじめます」



「おわります」

「ドロップス」のシンボルの例



学校



歯を磨く



お腹が痛い

【参考】視覚支援シンボル集（ドロップス）：ドロップレットプロジェクト

<http://droplet.dbo.jp/drops/>

マカトン法、マカトンサイン：日本マカトン協会 <http://makaton.jp/>